

(3) 事例発表『自然歩道の活用先進事例～信越トレイルの取組み～』発表抄録

(講師：木村宏氏)

1) 信越トレイルについて

- 信越トレイルは、長野と新潟の県境である斑尾山を含めた関田（せきだ）山脈のほぼ尾根沿いを縦走する総延長約 80km のロングトレイル（長距離自然道）である。
- 日本海から約 30km に位置する関田山脈は、標高 1,000m 程度にもかかわらず冬季は積雪が 5 メートルを超える豪雪地帯であり、ブナの森をはじめとする豊かな自然や文化・歴史が色濃く残る里山である。

2) 信越トレイル設置までの経緯について

- 12 年度の国土交通省『北陸地域の地域づくり戦略』事業に基づく活動の一環として長野・新潟両県の有識者で構成する信越トレッキング委員会（設立当初は「信越エキゾチックトレッキング委員会」）が設立された。
- さらに平成 13 年度には地元関係者を中心に『関田山脈歩くルート設置推進連絡会』が発足し、新潟・長野の県境に位置する関田山脈にトレッキングルートを設置することによる地域連携、活性化に関する調査、研究が行われた。
- 3 年間の調査、研究の実績として関田山脈のトレッキングルート設置が具体化し、平成 15 年度には関田山脈のロングトレッキングルート（信越トレイル）を実現すべく『NPO 法人信越トレイルクラブ』が発足した。
- 『NPO 法人信越トレイルクラブ』の活動の目的は、「豊かな自然環境の保全と持続的な利用」、「埋もれつつある歴史や文化の継承」、「環境問題への意識啓発」、「新たな観光による地域の活性化」とした。
- 平成 15 年 11 月には、先進地域視察として『アパラチアン・トレイル』を訪れ、メンテナンス組織（機構）のあり方や具体的なメンテナンス方法について学んだ。
- 平成 16 年 10 月には、関田山脈にトレッキングルート造りを進めている『NPO 法人信越トレイルクラブ』と、ルートが通る国有林を管理する北信と上越の両森林管理署が、ルート整備や維持などで協力する協定を結び、全長約 80km に及ぶ「信越トレイル」のうち国有林部分を「関田トレイル」と設定し、同トレイルが適切に整備・維持管理・利用されることを目的に、調査・整備等の際の人的支援や作業の際の技術指導、入林届け等の提出書類の簡素化を図った。
- さらに、16 年度から 21 年度にかけて、信越トレッキング委員会当初から関わっていた 13 市町村に、周辺の 4 市町村や民間団体などが加わり両県 17 市町村（合併後 10 市町村）からなる『信越地域観光交流推進協議会』が発足。国土交通省による『観光地域づくり実践プラン』事業を推進すべく、信越トレイルを核とした“ブナの森”と“歩き”から「信越地域の自然・歴史・文化に触れ、守り・学び・伝える新しい観光のかたち（エコツーリズム）」をテーマに、県・市町村を越えた地域連携と交流を復活させ、信越地域の観光交流を実践している。

3) 信越トレイルの整備について

- 信越トレイルは、平成 12 年の調査段階から 8 年の歳月を経て、延べ 2,000 名の一般ボランティアの差整備作業協力を得て、2008 年 9 月 13 日に全線が開通。2009 年からは、メイントレイルとアプローチトレイルの整備を隣接する各地域や団体が分担して受け持ち作業を行っている。

4) 信越トレイルの自然環境保全への取組みについて

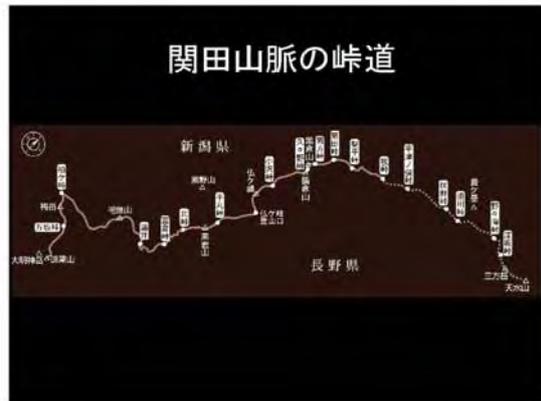
- 信越トレイルは、トレイルの適切な利用を進めるために、これまで（平成 20 年 9 月の全線開通までに）延べ 700 名ものボランティアによる自然環境の調査（動植物の生息状況、水源利用状況、交通量・入山状況等）を行うとともに、環境保全の専門家、観光事業者、トレイル整備に参加する住民からなる『信越トレイルの利用と保全に関する検討委員会』を設置・運営している。

5) 信越トレイルの整備効果について

- 信越トレイルの整備以降、利用者の増加、地元教育機関による森林学習機会の増加、健全で多様性に富む森林環境の再生、地区レベルにおける再整備に向けた取組みの動き等の効果がみられている。

6) 今後の課題について

- 信越トレイルの今後の課題としては、「二次交通の整備」、「テントサイトの整備」、「更なる利用者の拡大」、「持続的な維持管理・運営体制の確立」、「トレイルランニングとの共存」が挙げられる。



平成12年～14年 国土交通省
「地域づくり戦略事業」

↓

信越トレッキング委員会
委員長 小山邦武（当時飯山市長）

関田山脈歩くルート設置推進連絡会
（周辺市町村関係者）





NPO法人信越トレイルクラブ 設立

活動の目的

- 豊かな自然環境の保全と持続的な利用
- 埋もれつつある歴史や文化の継承
- 環境問題への意識啓発
- 新たな観光による地域の活性化

平成15年11月 先進地域アメリカ合衆国視察 ～アパラチアントレイル～

アパラチアントレイルとは？

- ・ アパラチアントレイル
 - 一アメリカ東海岸、メイン州からジョージア州にまたがる総延長3500キロに及ぶロングトレイル
 - 一整備されて約80年
 - 一アメリカの自然のシンボリックな存在
- ・ トレイルメンテナンス
 - 一ATO(アパラチアントレイル協議会)がすべてのボランティアグループを統括
 - 一各州の31ボランティアグループによってトレイルメンテナンスが行われている



アパラチアントレイル メンテナンス概念図



アパラチアントレイル メンテナンス方法

トレイルのメンテナンスを行う上で、USフォレストサービスにより、細かなマニュアル(規定)が設けられている。



例えば、

- トレイルの幅や頭上確保の高さが人間・馬・自転車等それぞれに関して細かくサイズが決められている。
- 状況に応じたトレイルの排水システムの整備に関する細かな規定(斜度、形状、土壌等)がある

アパラチアトレイル
メンテナンス方法

各ボランティア団体が統一したマニュアルによるトレイルメンテナンス



自然や利用者にとってやさしいトレイルの整備を実現
継続的なトレイルの利用が可能













未開通区間ルート調査



未開通区間ルート調査



北信・上越森林管理署の皆さんと



平成16年10月21日 関田トレイル協定締結式



平成21年3月18日 関田トレイル協定締結式



草刈作業(実施前)



草刈作業(実施後)



残った笹の切り株の除去



道標運搬作業



道標設置作業



091019野々海湿原木道整備



091019野々海湿原木道整備